

「平和」を実現させるために

成瀬中学校3年 千原 航平

「平和」という言葉について考えるとき、「戦争がないこと」を連想する人が多いだろう。戦時中は貧しい暮らしを強いられ、いつ空襲が起こるかもわからない状況だったので、平和とは程遠い世界が広がっていたことは周知の事実である。世界中のだれもが、戦争のない世界を望んでいるはずだ。だが、戦争がないからといって必ず平和であるといえるのだろうか。平和の実現には、何が必要なのか。私はそこに疑問を感じた。ひとまず、私は戦争について考えてみることにした。

私は戦争について考えるには、まず日本の戦争の歴史を正しく知る必要があると思った。日本が行ってきた戦争の中でも、特に日本最後の戦争である太平洋戦争に焦点を当てたい。調べてみると、戦争の原因のひとつである満州時変を起こしたのも、直接開戦のきっかけになった真珠湾攻撃を仕掛けたのも日本だったということが分かった。

さらに、当時の日本では、戦争を続けることを支持する国民が大多数だったそうだ。「戦争を始めたのも、続けようとしたのも、日本じゃないか。」私はこの事実を知って、大きなショックを受けた。そして、深い疑問を感じた。なぜ、そのような貧しい暮らしをしてまで、戦争を続ける選択をしたのか。争わずに解決する道はなかったのだろうか。

日本は太平洋戦争以降、八十一年間戦争をしていない。そのため、私を含め戦争を身近に感じていない人が多いだろう。というより、身近に感じられない、といった方が妥当かもしれない。もちろん、ニュースなどで戦争の話題を耳にすることはあるが、今の日本では戦争の名残を身近に感じる機会も減ったし、自分から知ろうとしない限り戦争の歴史に触れることもあまりないと思う。

そんな中、仮に日本が他国と戦争になった場合、国民は戦争をしない選択をできるのだろうか。国民全員が戦争に反対するような世の中を望みたいところだが、太平洋戦争の時のように「もし戦争に勝てば、国をより強く、豊かにできる」という思想から、過去の過ちを繰り返してしまう可能性もゼロではないと思う。そのような愚行は、戦争で亡くなった方や戦争でつらい思いをした人への冒瀆だろうと思う。戦争でつらい経験をした人が大勢いるにもかかわらず、戦争を繰り返すなんて、決して許されないはずだ。むしろ、その負の歴史を忘れず後世に語り継ぎ、世界から戦争を消し去ることが、唯一の原爆被爆国である日本に生まれた私たちの使命なのではないだろうか。私も戦争の歴史と改めて向き合い、戦争を繰り返さないという意思を強く持ちたいと思った。

ここまで戦争について考えてきたが、最初にも問いかけたように、戦争がなければ平和なのか。私は少し違うのではないかと思った。私は平和とは、自分を大切にし、違いを認め合えることだと思っている。日頃の生活の中で小さな幸せを感じ、人と出会う中で共感する心を知っていく。時には周りの人と対立してしまうこともあるだろう。そんな時は、お互いの価値観を認め合い、思いやる心を持つことが平和への第一歩につながるのではないだろうか。だからこそ、今を生きる私たちには、豊かな感性を持って生きることが必要だと思う。私も、まずは生活の中のコミュニケーションで、相手の違いを認めることから平和を実現していきたいと思った。

私は何気ない日々の時間が大好きだ。部活の時間に友達とたわいもない会話を交わす。でも、滑舌は悪いし、話もコロコロと変わるから、結局何の話をしていたのかよく分からないまま部活の練習が始まる。そんなくだらないやりとりを笑って見てくれる友達がいる。私はこのような、日々の平和な光景がいつまでも続く社会を心から願っている。